

新居浜工業高等専門学校 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（応用基礎レベル） 令和6年度自己点検・評価結果

評価日時：令和7年5月7日

会議場所：新居浜工業高等専門学校

会議名称：点検・評価運営委員会

目的：令和6年度のデータサイエンス教育プログラムの内部評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」の審査項目の観点による評価

自己点検・評価項目	自己点検・評価結果	自己点検・評価理由
プログラムの履修・修得状況について	改善を要する	本校では、所属の学科・学年に開設されている授業科目（同一時間帯に開講される選択科目は受講申告によりいずれかを選択）は、すべて受講しなければならない。そのため、令和6年度の本教育プログラムのうち、所属の学科・学年に開設されている科目の履修者は100%であり、修得率もほぼ100%近くに達している。 その一方で、自由選択科目である「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」については履修者が少なく、プログラムの修得者も少ない。これら自由選択科目の履修者を増やす方策として、受講登録の期日の前には教室にチラシを掲示しているが、さらなる周知や浸透のための方策が必要だと考えられる。
学修成果について	良好	本校では、本教育プログラムに係る科目だけでなく所属の学科・学年に開設されている授業の全科目の授業アンケートを実施している。本教育プログラムに係わる科目のうち、所属の学科・学年に開設されている授業科目のアンケート結果では、令和6年度授業アンケートの「この授業の学習目標に対する自分の達成度はどのくらいだと思いますか」の項目の平均値は「80%以上」が68%、「60%以上」が28%、「60%未満」が4%であり、「80%以上」及び「60%以上」で96%を占めていることから、履修学生の達成度は高いと評価できる。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度について	良好	本教育プログラムに係る科目の令和6年度授業アンケートの結果、「内容は理解できましたか」の項目の平均値は「よく理解できた」が77%、「どちらともいえない」が20%、「理解できなかった」が2%であった。以上のことから、履修学生は内容の理解度が高いと評価できる。自由選択科目の「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」については修得者の83%がA評価であるため、こちらも内容の理解度は高いと考えられる。
後輩等他の学生への推奨度について	－	「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」が自由選択科目であるため本プログラムの修得者が少なく、十分なアンケート結果が得られていないので、推奨度についても十分な結果が得られていない。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況について	改善を要する	「ものづくりとAI（基礎）」「ものづくりとAI（応用）」は自由選択科目であるため履修者が少なく、これによってプログラム修了者が少ない。自由選択科目の受講登録の期日の前にはこれらの科目を説明するチラシを教室に掲示し、周知を行っている。 チラシだけでは効果が足りないと感じられるので、動画での紹介や模擬授業などを行いプログラムとこの科目のPRをすることを考えている。集中講義での実施のため、受講を登録する日と講義開始日が離れており、講義に対する実感が持ちにくいように感じており、実施のスケジュールについても再考したい。 また、情報を専門とする学科については所属の学科・学年に開設されている授業科目で履修・修得できるようプログラムを変更する予定である。
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価について	－	令和6年3月卒業時点で本教育プログラム修了者はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	良好	本校では毎年運営諮問会議にて外部評価を受けており、プログラムの実施についても報告し、その意見をプログラムに反映できるようにしている。

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	良好	本教育プログラムに係る科目において、先進的な事例を紹介しつつ、いかにAIが私たちの生活を支える仕組みや様々な企業の生産や管理に取り込まれているかを講義している。授業アンケートや理解度調査アンケートなどから、数理・データサイエンス・AIにおける「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を伝えられるよう取り組んでいる。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	良好	本教育プログラムに係る科目は、授業アンケートを通して年度ごとに改善される体制を取っている。また、授業に用いた教材をLMSを用いて配布することで自学自習に役立てられる環境を整備している。 また、本校は「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」における四国支部ブロックの会員校であり、シンポジウムやワークショップなどに参加することで数理データサイエンスAIプログラムに関する情報を得ることに務めている。数理・データサイエンス・AIを研究のテーマにしていたり利用している教員とも連携し、研究の最前線における利活用の情報を共有している。